育脳待子屋NEWS

2020. 9. 1

（お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい）

92 歳の現役保育士が語る、「奇跡の保育園」の理念とは？

栃木県足利市にある「小俣幼児生活団」という変わった名前の保育園。
その園は**「奇跡の保育園」**と呼ばれ、全国からの見学や取材が絶えません。

そしてその園で主任保育士を任されているのが保育歴約 60 年、御年 92 歳の**大川繁子**さんです。大川さんは園についてこう話します。

「ここでの保育を『奇跡』と呼んで頂けるのは、私が 92 歳の現役保育士だからではありません。確かに長い間保育の現場に立ち続け、何千人もの子供たちを預かってきたけれど、私自身はスゴイ技術を持った奇跡の保育士ではない。

ただ、もし『奇跡』と呼べるものがあるとしたら、それはうちの園ならではの保育のあり方じゃないかしらって思います。

小俣幼児生活団の保育のテーマは、一言で表すと『自由と責任』。卒園する時には、自分のやりたいことに没頭し、自分の頭で考え、自分の能力を発揮できる力（自由に生きる力）と、それに伴う責任を持てる子になっていて欲しい。・・日々そう思っています。」

「ほったらかし保育」で子供は伸びる！？

大川さんの保育の根底にあるのは**「モンテッソーリ教育」**と**「アドラー心理学」**の考え方で、園ではこの二つの考え方のいいとこどりをしているのだそうです。

「モンテッソーリ教育」とは、障害者教育がルーツの「自立した人間」を育てるための教育法のことです。子供がすべきことを大人が一方的に決めたりはしない、むやみに手や口を出したりしないよう気を付けます。子供が持つ能力を引き出すため、あくまでサポート役（援助）に徹するのです。

「アドラー心理学」では、大人と子供を対等の立場と置きます。長く生きているからといって立場が上なわけでもなければ、命令したり怒ったりしてよいわけでもありません。ただただ子供を認め、尊重します。

（※「モンテッソーリ教育」・「アドラー心理学」に関しては多くの本が出版されています。
子育て・親育てに役立つ内容満載なので、興味のある方はぜひご一読を・・）

0歳児から5歳児までが通う小俣幼児生活団では、「クラスみんなで同じことをする時間」がありません。一人一人が自分の好きなように過ごします。最年長の5歳児も、みんなで同じことをするのは1日に1時間だけです。

ではその「いいとこどり」とは、具体的にどのような保育なのでしょうか？

【自分のことは自分で決める】
・・給食はバイキング形式で、自分はどれくらい食べるのか、自分で決めてお皿によそいます。給食の時間になってもやりたいことがあったら、パスしても構わない。

【お昼寝は強要しない】
・・お昼寝は20分経って眠れなかったら起きて遊んでも構わない。

【ルールは園児が決める】
・・保育士が勝手に決めるルールはほとんど無く、園児と一緒に話し合って決める。

これらはほんの一例ですが、普通の保育園と比べればかなり変わっていますよね。このような保育を園では「ほったらかし保育」と呼んでいるそうです（笑）

大川さんいわく、「教育ほど恐ろしいものはない」

小俣幼児生活団はなぜ普通の保育園とは違う保育を行っているのでしょうか？それは大川さんが体験してきた人生に関係しています。

彼女が生まれたのは1927年（昭和2年）。10歳の頃に日中戦争がはじまり、18歳の頃に第二次世界大戦が終戦するという、戦争の時代を生きてきたのです。

日本は正しい戦いをしているのだから勝って当たり前。負けるはずはない。

そう教えられながら女学生時代には毎日、竹やりを持って「ヤー」と突きの練習。「声が小さい！それでは米兵に勝てんぞ！」と言われ、さらに大きな声で「ヤーッ！！」。何かを考える余裕すらなく、当たり前にそんな日々を繰り返していたのです。

そして終戦を迎えた時、彼女は一気に「洗脳」が解けたと言います。

「大人が考えを押し付けたら、子供は簡単に染まってしまう。私はこれから何でも疑って生きよう。いろんな人に話を聞こう。そして自分で物事を判断できるようになろう」

このような経験から**「教育ほど恐ろしいものはない」**と思い知らされたのです。

その後結婚して栃木にある大川家に嫁ぎ、保育の仕事をするようになった時に、

『自分の経験した教訓を活かさなければ。上から言われて、何も考えず「はい、分かりました」ではなく、自分で考え自分の意見を持って、自分らしく生きられるように子供たちを導いていかなければ』

と心に決めたのでした。そんな思いを持ちながら保育（すなわち「保護」と「教育」）の仕事に約 60 年携わり、この奇跡と呼ばれる保育園を造り上げたのです。

我が子はどんな花を咲かせる？

奇跡の保育園と呼ばれるだけあって、説明会や見学会には多くの保護者さんが集まります。中にはわざわざ引っ越しをしてまで入園する方もいるのだとか。

そんな保護者さんたちに、大川さんが必ず最初に話すことあるのだそうです。

幼児期からモンテッソーリ教育やアドラー心理学を取り入れた保育を行っていると聞くと、「海外の起業家のようなスゴイ人を育てるのですね！」「早期教育に力をいれているのですね！」という方が多いのですが、私が目指している保育は決してスゴイ人を育てることではありません。私が目指しているのは**それぞれ持っている才能や力をめいっぱい発揮する保育**なのです。

子育てで辛いのは、親が本来カスミソウとして花を咲かせる子に対して『**こんなはずじゃない、この子はバラに育つはずだ。育てなければ！**』と思い込むこと。子供を否定することなのです。

もちろん子供を応援し、サポートし、才能を伸ばしてあげる環境を整えるのは親の役割です。ただし、子供が優秀であったり、お金持ちになったり、何か大きなことを成すことが偉いわけではありません。ましてやそれが「子育ての成功」ではないのです。

大川さんは**その子なりの花の形や、花の咲かせ方・・つまり個性を見つけてあげたい**と常々思っているそうです。

不幸なのは「スゴイ人」になれないことより、「スゴイ人」像を追い求めて本当の自分を否定すること、自分を認めてあげられないこと、自分の力を発揮できないまま終わること・・だと思います。

我が子は、我が子でありながらこの世に生まれた瞬間から「他人」です。残念ながら絶対に親の思う通りにはいかないのです。

我が子がどんな花を咲かせる子なのか・・、ゆっくりじっくり観察してみてください。

【参考資料：子どもはもっと自由に生きられる　大川繁子（実務教育出版）】

京大教育研究会 TEL0774-32-1917
育脳寺子屋宇治黄檗教室 TEL0774-32-1059